

# 西条市版ローカルファンド (ふるさと基金) 構想について

西条市企画情報部地域振興課

# ローカルファンド（ふるさと基金）とは？

ローカルファンド（ふるさと基金）＝コミュニティ財団

コミュニティ財団：市民が資金を出し合って設立する財団。自分たちが直面している問題を解決するために、自分たちでお金を出し合いそのお金を活用する。

言わば、「市民みんなのお財布」「市民の市民による財団」です。

これから、将来に向けて基金のあり方や活用方法など幅広く議論や検討を行ったうえで、基金の設立を目指しています。

全国コミュニティ財団協会の基準によると・・・

- ・ **機能**：寄付金の仲介を行っており事業分野・属性は特に問わない。
- ・ **法人格**：公益財団・社団法人、認定NPO法人のいずれかであり税制優遇制度がある法人。
- ・ **対象地域**：支援対象地域（根ざす地域）が定まっている。
- ・ **ガバナンス**：代表者が公職者ではないこと。役員構成のうち、官公職にあるものが1/3未満であること。独立した意思決定があり、情報開示などの第三者の目線によるチェックがおこなわれていること。
- ・ **出資の原資**：財団法人格の場合は、設立時の資産（基本財産）が行政機関または特定の企業及びグループ企業、特定の個人などの51%以上の出資ではないこと。  
（＝地域住民等からの出資によるもの）

# 西条市版ローカルファンド（ふるさと基金）構想について

## 資金調達例

### 【市民から】

- ・寄付
- ・遺贈（寄付）
- ・出資

### 【民間企業から】

- ・寄付
- ・金融機関の融資、出資

### 【行政から】

- ・目的別補助金の運営委託

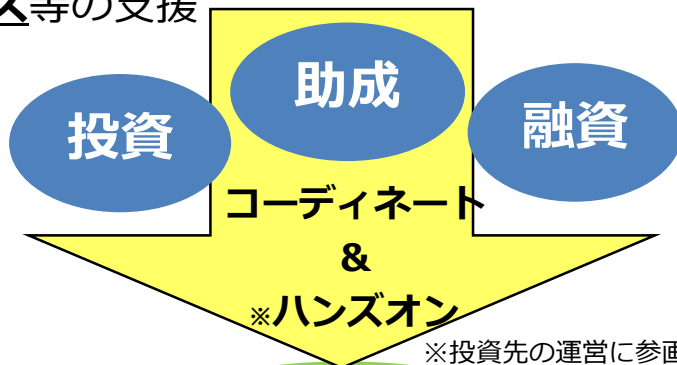
## 西条市版ローカルファンドが目指すところ

**Point：社会的収益の見える化**

**Point：社会的認証（信用）**

## 西条市ふるさと基金（仮称）

地域課題の解決と地域資源を活用した地域活性化を推進するためのコミュニティビジネス等の支援



## 活用例

### ●助成

公益活動への補助金  
事業指定寄付制度  
冠基金による助成制度

### ●助成＋融資

金融機関との協調融資

### ●融資

コミュニティビジネス  
支援融資

### ●西条市版SIB

（ソーシャルインパクト  
ボンド）行政補助金等を  
成果型へ移行

### ●地域通貨

= 人と人をつなぐ交換ツ  
ール  
電子マネーの活用等

非資金的支援  
（基金と連携）

★幅広い市民参加、  
人のつながりが  
支える地域

西条市の将来像

★ソーシャル  
インノベーショ  
ン

【人がつどい、まちが輝く、  
快適環境実感都市】

★ヒト・モノ・カネ  
が地域で循環

★産業の新たな流れ  
仕事と家庭のバラ  
ンス良い暮らし

★豊かで自立した持続  
可能な地域社会の形成

# 基金の資金調達例のひとつ・遺贈寄付

## ▼遺贈寄付とは？

一般には、お亡くなりになる方が、遺言によって、財産の全部または一部を法定相続人または法定相続人以外の人（自然人または法人）に無償で譲渡（贈与）することを「遺贈」といいます。当協会では、遺言による寄付（遺贈）に加えて、相続財産の寄付、信託による寄付、の3つを総称して「遺贈寄付」と言います。

【全国レガシーギフト協会HPより抜粋】

## 遺贈寄付への注目集まる

- ・単身高齢者の増加
- ・東日本大震災を機に、寄付行為への関心の高まり
- ・人生の終わりに備える“終活”への関心の高まり

など

## 遺贈に前向きな人の割合 61.6%

認定NPO法人「国境なき医師団日本」  
2017「全国の15～69歳の男女1000人に行った終活と遺贈に関する意識調査」

# 基金の資金調達例のひとつ・遺贈寄付

## ▼遺贈寄付の手続きをされた河室さんの声（H30.5.28読売新聞）

### 「社会へ恩返し。子どもたちのため」…生活支援受ける72歳



🔍 [画像の拡大](#)

遺贈を決めた河室さん。「社会のために行動したという実感があり、今のほうが生き生きしています」と話す（福岡市中央区で）

福岡市の河室エツ子さん（72）は2年前、遺贈の手続きをした。万が一の時には残った預金を、生活支援を受けている市社会福祉協議会と、親と暮らせない子どもの養育に携わる市内のNPO法人に寄付することになっている。

59歳の時に、約30年連れ添った夫を亡くした。子どもはおらず、一人暮らし。視覚障害があり、ガイドヘルパーなどの支援を受けている。「私の暮らしは社会に支えられている。恩返しがしたい」と思ったという。

葬儀や家財処分などを引き受けてくれる市社協の事業に申し込んだ際に、遺産については公証役場で公正証書遺言を作成するように勧められた。弁護士とも相談して、遺言に記した。

遺贈先の一つに子どものための団体を選んだのは、将来を担う子どもたちの力になりたいと思ったからだ。「元気に成長する姿を想像するのが楽しみ。社会の役に立てると思うと、暮らしに張り合いが出ました」と河室さんはほほ笑む。

遺贈という“地域への思い”を託す受け皿として  
次世代に先人の思いをつなぐ仕組みづくり  
＝地域における基金の必要性！

# 基金の活用例・西条市版S I B（ソーシャルインパクトボンド）

本事業は、成果連動型補助金改革として、まず採択事業に成果指標を設定し、その事業を応援して下さる市民に出資していただきます。事業期間終了時に採択事業者が成果を達成していれば、西条市がその元本を中間支援組織を通じて出資者に償還するものです。

## 1 特産品開発事業

### 酒ダイニングつじ丸

小麦を一切使用しない西条産はだか麦100%・野菜を使ったパウンドケーキのラインナップを増やし、販路拡大を目指します！



### (株)PENTA FARM

西条で採れた規格外の果物を使い完熟果物のソースとして商品化し、販売と雇用拡大を目指します！



## 2 商業地域等活性化事業

### とりや 福

商業地域でランチタイムの営業を開始し、西条産食材を活用したメニュー提供により地域の賑わい創出を目指します！



8月17日、目標額達成！  
ご協力いただきました皆様、  
ありがとうございました。  
皆様の思いが込められた資金をもとに、成果の創出を目指します！

# 活用例のひとつ・S I B導入の意味

## ○市民の出資によって採択事業を実施 ＝「関係性の投資」

- **市民による投資！！** 資金的支援と非資金的支援  
市民の方一人一人が、**地域の将来に「自分ごと」としてかかわる**  
(＝地域へのオーナーシップ)
- ⇒自分たちの手で地域を子や孫の世代へ受け継いでいくこと

## ○成果志向への意識変化・補助金改革

- 「事業のアウトカム（成果）」を決めるためには  
「政策のアウトカム（成果）」を明確にすること
- 必ずしも数値化できる「アウトカム」だけではない
- どのような「状態」をつくり出すか！

基金が立ち上がった場合、採択事業の**資金のつなぎ役**だけでなく、**事業実施・経営面での支援、アドバイス等、非資金的支援**も行う！



# ローカルファンド研究会について

## 趣 旨

- 地域の存続、社会的課題の解決には、従来の行政主導のまちづくりでは限界
- 回ごとにテーマ設定した研究会を通じ**先進事例を学び、さまざまな可能性を探る**
- 各団体や個人が行っている活動を共有し「見える化」

・西条市を良くしたい  
・このまちを子や孫の世代へ受け継いでいきたい  
という気持ちを持つ方にご参加いただきたい

## 長期的目標

- 西条市に合った形で「**市民によるふるさと基金**」創設に向けた機運を高める
- 各団体や個人が行っている活動を共有することによりそれぞれが連携していくことで、より**大きな効果を生みだしたり、解決が難しかった地域課題の解決へ**